

町には地域で活躍する団体・個人を支援する、住民活動サポートセンター（愛称「ぱる」）という施設があります。今回は、ぱるに登録している団体の代表者2人とセンター理事長にお集まりいただき、住民活動についての思いなどをお話しいただきました。



# みんなで作る玉村町!

## 活動のきっかけ

**町長** 本日は「ぱる」に登録されて、住民活動を頑張っている団体の代表者の皆さんと、ぱる理事長が集まっていたいただきました。住民活動に対するお考えなどをお聞かせください。まずは、理事長に2団体を選んで経緯をお話いただき、その後各団体の活動のきっかけと活動内容をお話ください。  
**高久** 「ぱる」の登録団体は87団体あるので、どの団体が良いか考えました。たくさん団体があり悩みましたが、一つは県からも表彰され、環境美化活動を行っている水辺の森を愛する会を選定し、もう一つは福祉の関係で、障がいがある子ども、その親などにとって暮らしやすい玉村町にしていたためにも、福祉分野で活躍されている滝澤さんにお願いました。  
**加賀美** 水辺の森公園は県の事業で整備をされ、平成17年に完成しました。当初はできるだけで管理がされず、不法



角田 紘二 町長

平成28年2月玉村町長就任。2日目。



高久和子さん(橘越) 住民活動サポートセンター「ぱる」理事長。自らの住民活動のかたわら、住民活動団体を積極的に支援。

投棄の場所になっていました。そんな惨状を見かね、平成24年に有志で草刈りや清掃などを定期的に行うようになったのが、現在の活動のきっかけです。次世代に引き継ぐというビジョンのもと、活動を活性化させ、現在は会員約20人程度で、無理なく作業をしています。



水辺の森公園での作業の様子

**滝澤** 平成9年から障がい児の親の会が集まって、一緒に遊ぼうと話をしていて、その後、親の会で子どもたちの預かりを補助することになったのがきっかけで、平成15年に

## 活動して良かったこと、苦労していること

**町長** 実際の活動でご苦労された点や活動して良かったことはありますか？  
**加賀美** 参加している人たちが、水辺の森は玉村の宝であり、財産であると言っています。ひどかった環境が活動によって良化していく姿を間近で見ても、大きな感動を覚えます。また活動に参加することによって、さまざまな人と交流ができ、人間的に成長できると同時に生きがいを感じています。定期的に清掃していますが、ゴミがいつもあります。だいぶ良くなったと言

われることもあります。マナーを守ってゴミを捨てないようにしてもらいたいものです。

**町長** 町に要望することは何かありますか？

**加賀美** 水辺の森は国、県、町と関わる部分なので、国や県から来た情報を町が取得し、「ぱる」へ流してもらえるとありがたいですね。

**町長** 水辺の森を利用し、野鳥観察会を実施したり、キャンプ場もあり、持っている環境を生かしていくのは町に課せられた役割だと思っています。そのためには「ぱる」や各愛好会、地域の人たちと連携していければと考えています。

**加賀美** 町には歴史資産もたくさんあり、それに関わっている団体とも連携を深めていきたいです。  
**町長** 滝澤さんのところは、お子さんの支援ということでありますが、お子さんがだんだんと成長していく中でご苦労はありますか？

**滝澤** 子どもが成長していく中で、就業と住む場所が必要となってきます。町は社会福祉協議会が就業支援を頑張ってきていましたが、住む場所の確保が課題でした。そこでグループホームを造ろうという話になりました。計画最中

で場所や土地をどうしようかと考えたときに、必ず手助けをしてくれる人が現れました。玉村の良いところだと思っています。学習支援を行いたいと思うたときも、「ぱる」に相談して元教員の人を紹介いただきました。さまざまな苦労に直面しますが、非常に感謝しています。



滝澤さんが運営する学童クラブ

**町長** 「ぱる」では、滝澤さんに行ったように、住民活動を行っている皆さんの支援もしていますか？

**高久** 団体が抱える問題点を受ける受け皿となっています。「ぱる」を地域のお困り相談所のように思っていたら、気楽に立ち寄っていただければと思います。住民に近づいた窓口でありたいと意識しています。

## 地域通貨の導入価値

**高久** 話は変わりますが、ボランティアの有償化という話が議会でも出ていました。ボランティアをさらに増やすた

めに、地域通貨など（主に町内で使える独自通貨やポイントなど）の交付も検討しても良いと思います。

**町長** 地域通貨とか有償ボランティアのように、何かをボランティアに還元することに

ついてはどう思いますか？  
**加賀美** 現状はお茶と簡単なパンくらいしか支給できていない、奉仕の精神でカバールをしていきます。ポイント制のようなものがあればさらにモチベーションがアップします。

**高久** 賛否あると思いますが、ポイント制のようなものが導入されれば、地域が活性化するという循環が生まれるのではないのでしょうか？

**滝澤** 住民活動をしている皆さんは気持ちで動いています。地域通貨のようにかたちで評価していたら、その活動を認めてもらったという喜びにもなります。福祉の関係だと県の福祉のまちづくり表彰がありますが、行動を評価していただけることが、次の



加賀美宏さん(下新田)

水辺の森を愛する会会長。角洲にある水辺の森公園を町内外に知ってもらうべく活動。



滝澤俊幸さん(板井) NPO法人代表。ケアホーム、相談支援事業所などを運営し、障害者、高齢者、児童支援などを行う。

行動へとつなげていける力となります。  
**町長** ふれあいの居場所づくりの中でも地域通貨の話は出てきていますし、県立女子大学があり若い学生がたくさんいますが、学生にも地域とつながってもらいたいわけです。その考えの中で、地域通貨は有効ではないかと考えています。  
**高久** にしきのホールの催し物にポイントが使えるのも良いと思います。  
**滝澤** 地域の中でさまざまな活動をしている人がいますが、地域包括ケアのように活動をしている人が重層的につながれば、地域の底力があるのではないのでしょうか？

## みんなで作る町へ

**町長** これから活動していく上で、どのように活動していくのか、や町に対して何か要望などはありますか？

**加賀美** 町に長く住んでいると見えないものが、町外の人には見えるものがあるので、広い視野を持って、町に根付

いている歴史文化を見なおしていきたいです。観光という面ではなく、足元の文化や自然を掘り起こして、引き継いでいくことが必要だと思います。  
**滝澤** 生活者の視点として、町に住んで良かったと思っています。20年前に町に転入しましたが、地域で公園の管理をしていたり、近所の人から野菜がもらえたりします。そんな地域が魅力だったりします。行政も人口規模からいうとコンパクトで、役場の職員の人からも柔軟に対応していただいています。

**高久** 住民、企業、行政、議会がそれぞれ違う立場ですが、各々の立場で役割を果たして、一つの町に作り上げていくと暮らしやすい町になるのではないかと思います。

**町長** さまざまなご意見をいただき、大変ありがたいです。果たし、活動していくことが大事です。もつとすばらしい町づくりをしたいと思いを新たにしました。